

# 北海道大学総合博物館

## ボランティア・ニュース

No. 17  
2010. 6

### 会報

#### 第8回 ボランティアの会総会、講演会および懇親会開催

会長 在田一則

第8回ボランティアの会総会、講演会および懇親会が2010年5月29日(土)16時から総合博物館2階共同研究室において行われました。以下に簡単に報告いたします。総会の議事などの内容については別紙、「報告」をご覧ください。

#### 総会(16:00~16:40)

総会は20名が出席し、永山さんの司会で行われました。会長の挨拶の後、安田さんから2009年度活動報告および2010年度活動計画案の提案があり、承認されました。2009年度の主な活動としては、4回の談話会、2回の博物館におしかけよう会、4回のボランティア・ニュース発行などがありました。とくに、開館10周年の機に行われた3月の博物館まつりでは、ボランティア継続活動年が6年以上の20名の方が永年ボランティア活動者として馬渡駿介前館長から表彰されました。2010年度活動はこれまで通りの活動を積み重ねますが、談話会でお話を聞きたい講師、博物館におしかけよう会の訪問先などの希望をお知らせいただければ、事務局でアレンジいたします。なお、2010年度のボランティアの会役員は、在田一則(会長、留任)、寺西辰郎・安田 正・加藤典明・米田友祐(以上事務局、留任)、星野フサ・安田 正・沼田勇美・永山 修(以上ボランティア・ニュース編集委員会、留任)です。

最後に、参加者全員が、自己紹介を兼ねて所属各グループの活動の様子などを紹介しました。高橋英樹教授からは、盛会のうちに終了したマキシモビッチ展「花の白露交流史—幕末の箱館山を見た男」(3月14日~5月9日)の協力へのお礼が述べられました。

#### 講演会(16:40~18:10)

講師:藤田正一先生(北大名誉教授, 総合博物館元館長)

演題:生物多様性保全と毒性学 —野生動物からの警鐘を聴け—

前半では、講演の基礎知識として、生体(人体)における化学的異物(毒物・薬物)の吸収・代謝と排泄のメカニズムの解説があり、後半では本題のオオワシ・アザラシ・ドブネズミ・ウグイ・コイ・モクズガニなどの野生動物を例として、ダイオキシンやPCBなどの環境汚染物質による汚染の現状、汚染物質の野生生物あるいは生態系への影響のバイオマーカー(CYP1A1)による評価法について話されました。ベトナム戦争での枯れ葉作戦によるダイオキシンの人体への深刻な影響についても言及されました。

#### 懇親会(18:00~19:40)

藤田先生ほか、15名が参加し、楽しく歓談しました。

\*\*\*\*\*



総会風景

## 特別寄稿

今回は、准教授の湯浅先生と資料部研究員の久万田氏からご寄稿いただきました。久万田氏の「松村松年先生小伝」は、今後4回にわたり連続掲載の予定です。

## ボランティアの方々へのメッセージ

ボランティアの皆様がこれまで訪れた博物館のなかで、印象に残っている場面や出来事とはどのようなものでしょうか。博物館に関わる方々の博物館体験の記憶を調査して、博物館体験の多様な意味を明らかにし、博物館の活動評価につなげること。これが私の研究テーマの一つです。博物館体験の記憶は、展示内容だけでなく、展示空間、建物の佇まい、ショップのグッズ、カフェで飲んだコーヒーなど多岐にわたりますが、なかでも、同伴者や博物館スタッフとの対話は記憶の主要な部分を占めています。

実際に、皆様も展示室で解説や案内を担当されて、来館者から感謝のお言葉を頂いたご経験をお持ちだと思います。また、各分野のボランティア活動の様子を見聞きして活動に関心を持たれ、ボランティア登録なさる方も増えてきました。ボランティアの方々は、このように、来館者に大きな影響を与えています。

また、ボランティアの方々相互に影響を受けていることにもお気づきだと思います。たとえば、ボランティアの学生達は、家族や教員、研究室の仲間とは異なる、様々な年代の経験を積まれた市民のボランティアの方々との対話から学び、励まされることが多いと語っています。また市民のボランティアの方々相互によい刺激を受けていらっしやることは、ボランティア・

### 総合博物館准教授 湯浅万紀子

ニュースなどでも紹介されています。

更に、本学で 2009 年度より推進している文部科学省教育 GP 採択事業「博物館を舞台にした体験型全人教育」のもとで学ぶ学生達も、ボランティアの方々から大きな影響を受けています。教育 GP の社会体験型科目の展示関連のプロジェクトでは、学生が来館者と対話するだけではなく、ボランティアや展示制作会社、博物館スタッフと協働する場面を設けています。学生達がプロジェクト終了後にまとめた考察によれば、ボランティアの方々との協働を通して学んだことは大きかったとのこと。それは、たとえば、来館者にごやかに話しかけて案内する方法、ベビーカーや手荷物をスマートにお預かりする方法、観覧後の感想を自然に聞き取る方法といった展示室での振る舞いを学んだことにとどまりません。皆様から日ごろの活動の様子や博物館への思いを伺って、ボランティア精神を学び、生涯学習の様々なあり方を知り、この博物館が多くの方に支えていただいていることを実感したようです。

多くの方に影響を与えている皆様の活動が、当然のことながら、ご自身にとっても意味あるものとなるよう、博物館の教職員は今後も尽力してまいります。

## 松村松年先生小伝①

### プロローグ

大学のローンの道を、初老の紳士がステッキを思い切り振り回しながら歩いていく。これがいつもの松村先生の出勤風景だった、と私は学生時代に聞いたことがある。先生は 1932(昭和 7)年に退職されるまで、今は料理店になっている北大南門わきの平屋の住宅に住まわれていたので、現在「エルムの森」として使われている当時の昆虫学・蚕学教室まではほんの 200メートルにも満たない距離である。それにもかかわらず毎日天下を睥睨するかのように通勤されていたらしい。

またこんな話も聞いたことがある。先生は講義の初めに必ず、「世界一の昆虫学者は……、第二は英国のだれだれ、第三はドイツのだれだれ」と列挙されるのだけれど、第一の名前は言わない。学生も毎年の

### 総合博物館資料部研究員 久万田敏夫

ことなので第一は誰のことか知っていたのだが、それでも毎回「先生、第一は誰ですか」と聞くのだそうである。すると先生は「この大馬鹿者！！」と一喝するだけだった、と言うことであつた。

この小伝を書くにあたって、改めて「松村松年自伝」を読み返してみた。上の二つのエピソードから、先生はかなりの自信家で、学生にとっては怖い先生であつたのだろうと想像されるが、自伝にもそのことが現れているように私には感じられた。私が教養から昆虫学教室に進学した 1953(昭和 28)年当時の内田登一教授もそんな先生の一人で、登校の時廊下で先生に行き会おうものなら、トラカライオンにであったような恐怖感に襲われたものである。どうやら昆虫学教室は代々怖い先生が続いていたらしい。いや、昔の先生は皆それほど威厳にみちみちていた、と言ったほうが正し

いのかもしれない。



松村先生  
(昭和8年撮影)

### 昆虫学者をめざす

松村先生は1872(明治5)年3月、現在の兵庫県明石市にて三男一女の末っ子として出生。子供の頃から大変な腕白小僧であったという。自伝によると、小学

校に上がった頃から野山を駆け回ることが大好きで、学校をずる休みしては虫とりや魚とりに、またトリモチを使った鳥とりに熱中した生き物好きの少年であったらしい。

13歳の時に次兄を頼って大阪の川口英和学校に入学、さらに翌年同志社英和学校の予備校に入学した。その夏休みに明石に帰省した松村少年は、長兄の竹夫氏のお宅を訪ねた時に見た「蝶の額」の美しさに圧倒されたらしい。蝶の採り方や標本の作り方を兄から習い、さっそく明石城をはじめ、付近の野山を駆け巡っては蝶を採る日課が始まり、その夏は昆虫採集に明け暮れたという。この蝶採りが災いしたのか、同志社英和学校本校への入学は2度も失敗し、あげくの果てに予備校からも放校同然に退学させられたとのことである。

— つづく —

\*\*\*\*\*

## 博物館訪問記

### サハリン州ティモフスコエ郷土博物館を訪ねて

ユジノサハリンスク駅から18:00発ティモフスコエ行きの夜行列車に乗り込んだ。同行者はカーチャ。海外科研の一環として、2010年3月14日から16日まで、サハリン中部の内陸にあるティモフスコエ郷土博物館で土器調査をするためである。翌朝6:50まで、490km余を北上する旅が始まった。日本との時差は2時間、窓の外はまだ明るい。



ティモフスコエは(北緯50度51分、東経142度39分)、1849年に政治・思想犯の流刑地として出発し、2005年には町制施行から125年を迎えた小さな町である。現在の人口は9000人程度という。

ティモフスコエ郷土博物館は、駅から車で20分ほどの町の中心部にある。レーニ

### 総合博物館学術研究員 小野裕子

ン像が立つ小さな広場に面した芸術・音楽学校の建物の地階にある。1F入り口脇には小さいながら博物館のブックショップが設けられており、刊行物や博物館グッズが売られている。展示室は2つあり、広いほうに旧石器時代から現在にいたるまでのティモフスコエの歴史が紹介されている。小さい方は帝政ロシア時代の開拓民の住居の内部が再現されていて、ロシアの民衆の暮らしぶりを伝えている。小さな博物館ではあるが、今回調査対象とした同市の西海岸にあるクルーグリ岬遺跡の保存・調査に早くから尽力するなど、遺跡の宝庫であるティモフスコエ地区の文化財保護に対する意識は高い。



ティモフスコエ郷土博物館が入っている芸術・音楽学校の建物

調査は特別に収蔵室の前室に長机と電気スタンドを用意して頂き、そこでまる2日間行った。お世話になったのは同博物館のセルゲイ・ガルブノフさんで、考古学の専門家であり、サハリン各地の遺跡に熟知した人物である。奥さんのスペラーナさんも同博物館の職員で、手作りのジャムを添えたお茶や、ポルシチの昼食を用意して下さるなどお世話になった。

## 小さな小さな博物館

久万田先生も、諏訪先生も、大原先生も知らない小さいな小さな昆虫館。それは三鷹市にありました。

JR 三鷹駅を出ると玉川上水沿いに風の散歩道があり、桜がきれいに咲いていました。散歩していると山本有三記念館が建っていました。記念館前の看板をフ見ると「諏訪クワガタ昆虫館」の表記が。どんなところか行ってみたくなり、看板の説明通りに井の頭公園沿いにジブリの森美術館方向に歩いていくと、その建物はありました。といってもすぐには見つからなくて交番で訪ねたり、商店できいたり、郵便配達人に聞いたりしてやっとたどり着きました。

昆虫館には鍵がかかっている「ご用の方は呼び鈴を」と言う文字。

鳴らしてみると50代くらいの館長が出てきて、4月始めの今の時期はほとんど訪ねてくる人はいないけど、どうぞ見て下さいと言われ見せていただくことにしました。

館の中には木の昆虫標本箱が30箱くらい壁に掛かっている、主に日本に生息しているクワガタが展示されています。薄暗い展示室を前に進むとどう見てもヘラクレスらしいカブトムシもいます。館長のお父さんが

ユジノサハリンスク市の郷土博物館でもそうであったが、親子連れで郷土の自然や歴史の展示物を眺めながらゆったりと過ごす人が多い。郷土の歴史や文化をモノとして伝え示すことで、郷土に対する愛着を育む役割を博物館が担っている。ハコモノ作りとは無縁の博物館の存在意義を垣間見る思いである。

### 昆虫・植物ボランティア 永山 修

クワガタ好きで自分で採集したクワガタの他に交換、購入したカブトムシも展示していたのです。

館長は以前札幌で勤務していたことがあり、北大にも良く足を運んだそうで、北海道の人が来たのは珍しいといろいろ話し込みました。東大博物館からもこの展示を見に来た方がいるそうです。

「今はひっそりしているけど、夏休みには子供たちで賑やかになるんですよ。クワガタやカブトムシの飼い方(館内で飼育してました)も教えるんです」と楽しそうに話していました。

### 追記

後日ネットで検索すると2000年までは長野県諏訪市で開館していたそうです。そのときは今よりもっとたくさんの標本箱があって、マニア?の間では評判の昆虫館だったようです。絶賛するコメントがたくさん寄せられていて、びっくりしました。

国内外の約250種、500頭のクワガタとカブトムシがあります。

(住所は 三鷹市下連雀1丁目14-4

電話は 0422-49-2787)

## ミャンマーの国立博物館を見学しました

この国はビザを取得しないと入国できませんし、政情が不安定なので行かないほうが良いと進める人もいます。しかし、運よくヤンゴン国立博物館を見学したので報告します。



この博物館はヤンゴン市内の有名なシュエダゴン

### 植物・図書ボランティア 星野フサ

パゴダ(寺院)の南にあります。近くの公園には戦車が展示されており、少し離れた所には金ぴかの寺院もあります。

入館時にはカメラや荷物も持たないで、すべて外のロッカーに入れなければなりません。

1階はグランドフロアー、2階はファーストフロアーで、5階まで展示があります。各階の数が日本と違って慣れるのに大変です。

私たち以外の客は館内に目立ちません。日本語のできる案内人の現地人女性は「博物館にボランティアはいません」とのことでした。その女性が帰国後、左の博物館の写真をメールで送ってくれました。

展示内容は北大博物館とはだいぶ違っていました。化石や鉱物あるいは岩石の展示は目立ちませ

ん。大きな絵画があって、その絵には象の歩く姿が描かれています。18 世紀に国を治めていた王様と王女様の衣装がガラス越しにも豪華なものであることが伝わってきます。ビルマの竖琴も展示されています。ミャンマー文字の起源についても詳しく解説されていました。

当然のことながら、車のナンバーも駄菓子子の袋の説明もミャンマー文字を使用しています。ミャンマー文字は日本で使っている視力検査の記号に少し似ていますが、いくつかの点がついていたりして風情があります。

見学した寺院はたくさんあります。非常に立派なものばかりです。ほとんどが金ピカです。小乗仏教の支配下にあるためか、金塊ドロボーは現れないようです。

\*\*\*\*\*

## 活動報告・他

### ヤップの石貨—北大総合博物館の“お宝”—

両手でひとかかえもある小判形の大きな平たい黒石が、本館の玄関ホールで来館者を出迎える。ガラスケースの中にもぶ厚く重そうに見える石で作られたお金、石貨がある。

ほぼ中央部に穿たれた棒通し穴に、丸太ん棒を串刺しにして、力持ちが前後二人がかりで石を挟んで棒を肩にかついで運んだものらしいが、その重さでさぞやお金のありがたみが身にしみて実感できたことだろう。



石貨の写真  
(最大直径は  
約 57cm)

今日の貨幣同様の貸借関係のみならず、石貨は原始的社会では儀礼的交換の象徴であり、お詫びや償いの証しともなって人の我欲や祈願を託す、文化人類学上の貴重な文化財になっている。それにしても、な

2007 年9月日本人カメラマンがミャンマーの反政府デモ取材中になくなりました。以後、観光客は激減し、現地人は出稼ぎに出なければならなくなったそうです。お釈迦が教えを悟られたインドボダイジュの大木に繁る葉に金粉をまぶし立派な箱に入れられて売っていました。

実は私、日食を見たくてミャンマーに出かけました。日食は 2010 年1月 15 日にありました。乾季のためか快晴で、金環食を見ることが出来ました。風が一瞬吹いて、あたりは暗くなりました。このとき自分が宇宙にいることを確認しました。不思議な体験でした。

このツアーでは多くの日本人の支えにより無事帰国することができました。

### 図書ボランティア 久末進一

ぜこんな不思議なものがここにあるのだろうかー。

その由来記の要旨は「北海道帝国大学当時の上原轍三郎教授が、南洋諸島の産業調査に従事の折に、1937(昭和 12)年 6 月、ヤップ島から持ち帰り、大学に寄贈した」というもので、現地語では「ライ」とか「フエ」と呼ばれていた。

カロリン諸島西部のヤップ島(Yap Island、北緯 9 度 30 分、東経 138 度 10 分。面積 101 キロメートル。四島構成)を含むマイクロネシアは、赤道から北緯 20 度、東経 130 度から 172 度の南洋海域にサンゴ礁の島々が二千以上も散在している。今から 489 年前の 1521 年、あの大航海者マゼランのグアム島上陸によりその存在が初めて世界史上に知られるところとなるが、スペイン領からドイツ領を経て、第一次世界大戦(1914 - 1918 年)後には、なんとマイクロネシアは大日本帝国領(国際連盟委任統治領)になっていて、石貨の島ヤップも日本のものだった。戦勝国となった英仏側に加担していたからである。

本館収蔵品を含め、石貨の石材はほとんどが隣接するパラオ島で産出する石灰岩の鍾乳石で、直径数十センチから約 2.5 メートルもの特大サイズのものまで、それぞれの欲望に似合ういろいろな種類が採石加工され、カヌーに積まれてヤップに運ばれてきた様子がしのばれる、のどかな南海の楽園が目につく。

だが、太平洋戦争勃発と共にマイクロネシア全域は聖戦遂行の大義名分「大東亜共栄圏」に、さらに「絶対国防圏」内の一角に取り込まれ、楽園の島々はやがて日本軍玉砕の戦場と化す。

パラオはあの戦艦「武蔵」を旗艦とした連合艦隊の

根拠地だった。ここからサイパン、グアムへ、マリアナ諸島攻略戦が展開する。

全ては日本本土空襲の爆撃機 B29 の航続距離を縮めるための飛行場建設をめざすアメリカ軍と、阻止をはかる日本軍との南太平洋上の激闘であり、ヤップ、パラオ周辺環礁の青く深い海底には今なお累々と軍艦やゼロ戦の残骸が散乱している。「絶対国防圏」を信じて戦死した北大ゆかりの軍人や学徒もたくさんいる。

そして、1945(昭和20)年の終戦後は1947年からアメ

リカがミクロネシアの国連統治委託国となり、ヤップの石貨は国外持ち出しが禁止された。従って本館の“お宝”はヤップ、パラオが日本領であったればこそ入手可能だった稀有の歴史と歴史的運命をも物語る。

それにしても「大東亜共栄圏」侵略の幻のはかなさに比べ、太古の息吹を伝えるこの石貨の存在感は、なんと凄いことか！

ヤップの石貨は原始から現代まで、人間の歴史と文明を串刺しにして、根源的価値を問いかけてくる。

## 4D シアターという場所

4D シアターは博物館2階、宇宙展示の横の小さなシアタールームで活動しています。宇宙空間を自在に動き回る疑似体験ができるという夢のような4D シアターが本格的に始動したのは今年の4月、ちょうど私がボランティアになった時のことでした。それまでも特別なイベント時には公演を行っていたそうなのですが、定期公演を行うのは前年度からです。始まったばかりというのは例外なく大変なもので、マニュアルすら自分たちで1から作り上げなければならず、ハプニングが起きてもその対処方法を誰も知らない、ということもザラでした。

それでも公演自体は好評で、楽しかった、面白かったと言って頂けるとすごく嬉しいです。最近では、当初よりも公演をスムーズに行う事はもちろん、もっと宇宙の楽しさを分かりやすく伝えるにはどうすればいいのか、と考える余裕がでてきました。宇宙には興味を惹かれる対象がたくさんあります。太陽系にはどんな惑星があるのか、夜空に輝く星はどれほど遠くにあるの

### 4Dシアターボランティア 石倉未奈

だろう、銀河って…。訪れるお客様には、最新の研究成果が分かるという大学博物館の特性を生かし、分かりやすく宇宙を学んで頂きたいと思っています。4D シアター以外でも、宇宙をもっと身近に感じてほしいという小俣先生の提案で始まったのが、北大の中に45億分の1に縮小した太陽系を作る、「北大太陽系プロジェクト」です。札幌市立大の学生さんに協力して頂き、つい先日、5月4日に太陽系惑星模型のお披露目が行われました。この模型も正確に45億分の1になっており、地球は何と3mm に。今後はこの模型を使った「太陽系ツアー」も企画されています。

メンバーは博物館ボランティア以外に本業を持っている場合が多いため、時間の都合がつきにくいです。そんな中でも、定期公演を持続させるために頑張ってきました。現在でも大変な状態は続いているのですが、メンバーが一丸となり4D シアターという場所を守っていきたいと思っています。

## キノコの世界を楽しみませんか

今年度は昨年度に引き続き、農学部から博物館へ移管された北大菌類標本庫(略号SAPA)の標本を、博物館資料部研究員小林孝人氏のご指導の下で整理しています。

維管束植物の場合とは異なり菌類の標本は紙袋に保存されていますが、時間の経過とともに紙袋が汚れたり破損したりしたものが多くあります。そうした紙袋を取り換え、標本ラベルを書き写してから、菌類標本室に分類収蔵します。

このように書くと単純作業のように思えますが、実際は菌の学名や寄生された植物の学名を図鑑で調べたり、古文書のような達筆の文字を判読するのに頭をひねったりと、なかなかバラエティに富んだ作業内容

### 植物(菌類)ボランティア 鈴木順子

になっております。さらに時間のある時は、小林研究員のご専門であるアセタケ属菌の胞子や細胞などを顕微鏡で観察させてもらっています。今までは“キノコ”という形でしか見ていなかった菌類が、顕微鏡で見ると違った生き物に見えてくるから不思議です。菌類のように肉眼では見落としがちな生き物も、他の動植物と相互に影響を与え合って自然環境が成り立っているのだと思うと、今更ながら自然の営みの奥深さを感じてしまいます。

以上のように様々な刺激を受けつつ、マイペースで作業を進めてきました。「知れば知るほど面白い」菌類なのですが、残念ながら現在登録ボランティアは私一人のようです。目には見えないけれど身近にいる菌

たちに興味のある方、一度S308号室を覗いてみてください。私自身も特に菌類に詳しいわけではありませんが、小林研究員が丁寧に指導して下さるので安心

して活動できます。秋にはキノコの野外観察・採集会も計画しています。皆さんも一緒に、豊穡なキノコの世界を賞味—いや違った—鑑賞しませんか？

## 「大本営」と「行在所」門標 第2報

図書ボランティア 沼田 勇美

### 島松の聖蹟碑

ボランティア・ニュース第 12 号に表題の記事が掲載された(図書ボランティア 久末進一さん記)。北大農学部の建物が大本営になったが、それは「陸軍大演習」が、島松演習場で大々的に行われたからである。1936(昭和 11)年の陸軍大演習は、10 月 3 日朝、演習場二翁台付近に於いて旭川と弘前の両師団の激突をもって演習の終りとなった。翌 1937(昭和 12)年、演習場内の九本木に天皇の行幸記念碑(聖蹟碑)が建立された。この碑の大きさは高さ 380cm、幅 166cm 厚さ 35cm の天然石。石碑の台座は 5.5m 四方で石碑は高さ約 1m の寄せ石をコンクリートで固めてある。聖蹟碑は国道 36 号線、島松沢から数キロ恵庭市に向かった右側に建っているが余程注意しないと判らない。私も陸上自衛隊島松補給処の広報担当幹部の案内で、ようやく判った次第である。

### 聖蹟碑の碑文

碑文は時の総理大臣、広田弘毅氏の手によるものである。戦後、氏は A 級戦犯となり極東国際軍事裁判で文官としてはただ一人死刑となった人物である。

碑文のおおよその内容は『昭和 11 年の秋に、石狩大平野で特別大演習を挙行政した。畏くも天皇陛下が統監され、10 月 5 日に島松原にて攻守状況を親察した。当日は台風一過、天気晴朗となり、沃野には錦旗がたなびいた。これを記念して此の聖地に碑を建立することとした。昭和 12 年 6 月』

次報は、北大農学部入口にある聖蹟碑について記載する予定です。

\*碑文中の「■」は、判読不能の文字

内閣総理大臣正三位勲一等広田弘毅篆額  
 昭和十一年仲秋挙行陸軍特別大演習於石狩之大野  
 天皇陛下畏忘旰食之勞統監用兵之狀十月五日進 大轟干島  
 松原頭親察攻守之籌略或具觀干城對戰之狀勢 聖慮深奧誰  
 敢不感激斯日天氣晴朗顯氣遍干沃野 錦旗颺祥風而威武維  
 揚 龍馬干輦路黎庶悉浴仁風蒼生滄潤慈雨洵是可謂未曾  
 見之盛事也頃者闔邑相謀建碑干此聖地以貽榮光後昆予憚其  
 舉出於至誠因請記梗 ■ 如此  
 昭和十二年六月  
 北海道庁長官 從四位勲二等 池田清 謹撰



\*\*\*\*\*  
**事務局からのお知らせ**

去る3月20日から22日までの3日間、北大総合博物館の開館10周年を記念し、「博物館まつり」が開催されました。その行事の一環として、長年ボランティア活動に従事された方々に、博物館から感謝状が贈られました。関連して、館長から感謝の辞が寄せられましたので、ここに掲載いたします。また、感謝状を贈られた方々を代表する形で、村上龍子さんから喜びの感想文が寄せられましたので、あわせて掲載いたします。

## 長年のボランティア活動に感謝しております

北大総合博物館館長 松枝大治

北大総合博物館は開館 10 周年を記念し、2010 年 3 月 20 日～ 22 日の 3 日間、「博物館まつり」を知の交流コーナーで開催しました。最初の日の「みんなでちえをだしあう DAY」の最後のイベントの懇親会で、永年ボランティアを続けてくださった方々に、当時の馬渡駿館長から感謝状を贈らせていただきました。その中で、最も永くボランティアを続けてくださっている方は 10 年目となります。まさに総合博物館の歴史とともに歩んでいただいたこととなります。現在、ボランティアは総計 160 名ほどいらっしゃいますが、ボランティア制度が発足した時には想像もできない繁栄ぶりです。今後とも総合博物館の活動を発展させるために、ぜひとも引き続きご協力をお願い申し上げます。なお、感謝状を贈らせていただきましたのは以下の 20 名の方々です(あいうえお順敬称略)。

10年目:梅田 邦子、桂田泰恵、金上由紀、久万田 敏夫、黒田シヅ、高橋美智子、与那覇モト子

9年目:村上 麻季、鳥本 准司

8年目:相原 大介、岡田美佐子、清水 良平、中野 系、星野 フサ

7年目:問田 高宏、渡辺 隆司

6年目:石橋 七朗、寺西 辰郎、沼田 勇美、村上 龍子

## 喜びのお便り

展示解説ボランティア 村上龍子

もう何年前だったかわからないズーッと前のことなのですが松木先生がご存命の頃、植物標本の整理をなさっていて「遊びにいらっしゃい」と言っていたいていました。それなのにととう一度もうかがわずお別れしてしまいました。その時はまだ仕事についていて余裕がありませんでした。いずれフリーになったら何か私にも出来ることをしたいものだとボンヤリと思っていたことでした。

とくにひと様に語るほどの人生も持ち合わせていないので、人生経験豊富な方のおはなしをうかがい共感し勉強させていただけるのが幸せです。展示ボランティアに参加するようになったのはいつだったかはっきりしませんが、ボランティア事務局からおさそいがあるって仲間に入れていただきました。この 3 月に 6 年もたっていたと知らされ驚いています。

何かむずかしそうではたして私に出来るかと不安でいっぱいでしたが、先生方やボランティア先輩の方々のおはなしや資料などにカづけられて今日までつづきました。出かけられる時に参加させていただき知らないことを知ることが出来る喜びと感動に感謝してこれからもほそぼそとつづけられたらなと願っています。

\* 予定より少し遅れましたが、ボランティア・ニュース17号を発行することが出来ました。今回は、年度始めの総会開催とその報告、それに皆様から多くの原稿が寄せられたこともあり、通常の2倍の8ページ仕立てとなりました。

\* 事務局および編集委員会では、皆さん多くの方の参加をお待ちしています。通常のボランティア活動の延長と見え、気楽に参加してください。

\* ニュース原稿の寄稿、また談話会、見学会などの企画に際して、皆様のご意見、アイデアお待ちしております。

\* 11月10日 ボランティア室に電話が設置されました。  
番号は011-706-4706 ダイヤルインです。

\* ボランティア・ニュースは博物館のホームページからもご覧になれます。

<http://www.museum.hokudai.ac>

### ボランティア・ニュース

◆編集・発行

北海道大学総合博物館ボランティアの会  
(担当者:星野、沼田、安田、永山)

◆発行日:2010年6月1日

◆連絡先

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目

Tel: 011-706-4706